

北見工業大学学報

第250号 (2012年3月号)

目 次

学位記授与式	平成23年度学位記授与式を挙行……………	3
告 辞	平成23年度学位記授与式告辞……………	4
入 試	大学院工学研究科(第2次)入学試験を実施……………	8
	工学部入学試験を実施……………	9
研 究 助 成	平成23年度共同研究の受入状況……………	10
	平成23年度受託研究の受入状況……………	10
	平成23年度奨学寄附金受入状況……………	10
人 事	人事異動……………	11
国 際 交 流	2012年留学生交流のタベ……………	12
諸 報	図書館長と学生利用者との懇談会を開催……………	13
	日本政策金融公庫マーケティングセミナー&ビジネス商談会に参加……………	14
	北海道新工法・新技術商談会および札幌モーターショーで技術展示……………	15
	北見市立東小学校の理科実験研修を実施……………	16
	マネジメント工学コース第一期生の卒業論文発表会……………	17
	北海道地域3大学新技術説明会参加……………	18
	安全衛生講習会を開催……………	19
	図書館情報システムを更新……………	20
	FD講演会を開催……………	21
	個人情報保護研修を開催……………	22
	北見医工連賞授賞式・オホーツク医学大会を開催……………	23

	新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン成果報告会を開催……………	24
	地震を想定した防災訓練の実施……………	25
	北見工業大学ロゴマーク決定！……………	26
	寒地土木研究所との連携・協力に関する協定を締結……………	27
	平成 23 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式(退職時)を挙行…	28
目 次	2 月・3 月……………	29

= 学位記授与式 =

平成 23 年度学位記授与式を挙行

(総務課)

3月21日(水)午前10時から、平成23年度学位記授与式を北見芸術文化ホールで行いました。

学部419人の卒業生、大学院博士前期課程114人及び大学院博士後期課程7人の修了生に対し、鮎田耕一学長から学位記が授与されました。

引き続き、学長告辞、小谷毎彦北見市長、永田正記後援会会長、小田桐久信同窓会会長及び近藤和雄学生後援会会長からの祝辞の後、バイオ環境化学科・佐藤こずえさんが、「この4年間で得た知識や技術を基礎とし、この先、どんな困難に直面しても、自己研鑽への努力を惜しまず、社会に貢献し

ていくことで、この国の未来を切り拓いていけるものと信じています。」と答辞を読み上げ、式は無事終了しました。



卒業生、修了生の人数は下表のとおりです。

学部

学 科 名	卒業生数(人)
機械工学科・機械システム工学科	92
社会環境工学科・土木開発工学科	58
電気電子工学科	64
情報システム工学科	61
バイオ環境化学科・化学システム工学科	74
マテリアル工学科・機能材料工学科	70
合 計	419

大学院博士前期課程

専 攻 名	修了者数(人)
機械システム工学専攻	31
電気電子工学専攻	14
情報システム工学専攻	14
化学システム工学専攻	20
機能材料工学専攻	19
土木開発工学専攻	16
合 計	114

大学院博士後期課程

専 攻 名	修了者数(人)
システム工学専攻	2
物質工学専攻	2
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3
合 計	7

= 告辞 =

平成 23 年度学位記授与式告辞

学部卒業、大学院修了の皆さん、おめでとうございます。

皆さんの努力が実り、めでたく学位記を授与されたことに敬意を表し、北見工業大学の教職員を代表してお祝い申し上げます。

本日は、多くのご家族や関係者の方々にご出席いただきました。学位記授与式に毎年利用していた北見市民会館が改修工事中で、今年はこの芸術文化ホールを会場に致しました。市民会館に比べ手狭なため、皆様方には別室で映像を通しての式典になりましたことをお詫び申し上げます。

本日は、ご多用にもかかわらず、北見市長の小谷様、大学後援会会長の永田様、同窓会会長の小田桐様、学生後援会会長の近藤様にご臨席を賜り、昨日とは打って変わったオホーツクブルーの青空に恵まれ、学位記授与式を挙行できますことを嬉しく思います。

本年度は、学士 419 人、修士 114 人、博士 7 人に学位記を授与致しました。

この中には、中華人民共和国、マレーシア、ナイジェリア連邦共和国からの留学生がおります。

本日の卒業、修了は卒業生の皆さんの努力のたまものでありますが、同時に皆さんを温かく見守り続けてこられたご家族、友人の方々や関係者の皆様の精神的、経済的な支援のおかげでもあります。

特に、ご家族は今日この日を、晴れやかな、そして少しほっとした気持ちで迎えら

れていることと思います。心からお慶び申し上げます。



さて、卒業生の皆さんが学生生活の最後を送った去年は、なでしこジャパンのワールドカップ初優勝という明るい話題があったものの、心に重く残る災害や事故などが続いた 1 年でした。

振り返ってみますと、2 月にニュージーランドで死者 180 人余りに及ぶ大きな地震があり、日本からの留学生や語学研修生など皆さんと同じ世代の若い人が 28 人も亡くなり、先月ニュージーランド政府主催の追悼式典が行われました。英語を修得し世界に羽ばたこうという志半ばで命を落とされた方々はさぞ無念だったことでしょう。お悔やみ申し上げます。

3 月 11 日には、私たちにとって生涯記憶から消えさることがない東日本大震災が発生しました。史上最大のマグニチュード 9.0 の東北地方太平洋沖地震とそれに伴う大津波で 2 万人もの尊い命が奪われたばかりでなく、被害総額が 20 兆円近くに上り、日本経済に大きな打撃を与えています。

亡くなられた方はもちろんのことご遺族の皆様方に改めて哀悼の意を捧げます。被災された方々は現在もつらい生活を送られておりますが、「絆」ということばで代表される人と人の助け合いが今ほど求められていることはないでしょう。私たち工学の世界に身を置く者にとってこれからの復興にさらなる力を結集していきたいと思っておりますし、若い皆さん方の力が必要とされています。

この大地震に伴って発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故は炉心溶融を起こし、放射性物質の拡散など収束にはほど遠い状況にあります。

この原発事故では、工学技術に携わっている私たちにとっても技術者倫理や原発の安全神話などに関して反省すべき点があります。

技術者倫理に関しては、原発事故後、原子炉の設計や製造にあたった技術者から当時その耐震性や安全性について疑問を呈したものの主張を通すことができなかったという反省の弁が述べられていました。

授業の工学倫理で学んだように、企業には安定した経営の下、利益をあげ、社会貢献をするとともに、社員やその家族の生活を守るという組織としての倫理があります。一方、技術者には企業の利益より安全性を優先すべきという個人としての倫理があり、両者には矛盾が生じます。

学位記授与式にあたって社会に巣立つ皆さんに伝えたいことは、技術者として組織の目的とそれが抱える矛盾を正しく認識したうえで、組織に誤りがあると判断した場

合には、勇気を持って自分の意見を主張しなければならない、ということです。それが工学を学んだ者として倫理上最も重要な心構えです。

また、本来ないはずの安全神話が一人歩きをしてしまったことも残念です。もちろん工学の分野でも十分に解明されていない事象はありますが、技術者として想定外であってはなりません。何が解明されていないか、その不確定な要素を考慮して安全係数を設定し、それに基づいて設計し安全性を高めなければいけません。

本学で学んだ皆さんは、技術者としての倫理観や安全性に対する知識を兼ね備えているのですから、安全神話を過信することなく、想定外と逃げるのではなく、自信を持って社会人の一步を踏み出して下さい。

東日本大震災と原発事故によって打撃を受けた日本経済が立て直しを図っている最中にタイで洪水が起きました。7月から数ヶ月に及ぶ洪水で450人の方々が亡くなったと報じられていますが、タイに進出している日本企業が3000社以上という報道に接して我が国の企業のグローバル化に改めて驚かされました。日本を代表する企業をはじめとして500社に及ぶ日系企業の工場が被害を受け様々な部品などの生産ラインの機能が消滅し、それが企業全体にダメージを与えているとのことです。

加えて、金融・経済関係では、円高が急激に進み10月末には史上最高値を記録しました。

ギリシャに端を発したヨーロッパの金融危機は、イタリア、フランスなどにも波及しユーロに対しても 10 数年ぶりの円高になっています。

各国独自の貨幣をユーロという単一貨幣にしたために、かつてであればギリシャだけにとどまっていたであろう経済危機が瞬く間に他国にも悪影響を及ぼし、ヨーロッパに信用不安をもたらしています。

このようにこの 1 年を振り返ってみますと、大きな災害や事故などが集中して起きました。

それぞれは互いに関連はなく独立して起きた出来事ではありますが、その影響の度合いから考えますと高度に発展し続けた現代社会の下で、地下の水脈で結びついているように思えます。東日本大震災後の復旧状況やタイの水害で被害を受けた各企業の状況、金融危機の各国への伝播状況に接しますと、集中化や合理化が極度に進んだ現代社会の余裕のなさが、被害を拡大させているように思えてなりません。

そのため、複雑に絡み合う現代社会の事象に過去にとらわれて対応していたのでは、これまでと同じ繰り返しを引き起こすことになりかねません。具体的な根拠に基づき検証し、確かな結論を導き出して下さい。皆さんは、本学でこの力を身につけてきました。社会に出てからは、その真価が問われます。

卒業生の皆さんが生まれたのは事実上冷戦が終結し、東西ドイツが統一されるなど

世界が大きく変動した時代であり、また日本ではバブル経済が崩壊した時代でもあります。

それから 20 年間あまりの前半はバブル経済崩壊後の「失われた 10 年」であり、その後、一時景気回復の兆しがあったもののリーマンショックに端を発し世界が同時不況に陥り、経済が停滞を続けた「失われた 20 年」と皆さんの人生は重なります。

このように皆さんは我が国や世界の経済が右肩下がりになった時代とともに成長してきました。そして襲ったのが 3.11 の東日本大震災と原発事故です。

我が国が高度経済成長を遂げ、「ジャパン・アズ・ナンバーワン」といわれ、世界第 2 位の経済大国で繁栄を誇った時代を知っている私の世代やそれに続く団塊の世代の人々にとって、文字通り失われた 20 年という想いが強く、近代日本として明治維新、戦後復興に続く第三の改革を遂行することにより、あの経済大国に再び戻ることを願ってきました。

しかし、この 20 数年は見方を変えますと私たちの世代の人間が慌てふためいてきただけで、若い皆さん方にとっては、これが平常な状態であり、その中で今までの人生を送って来たわけです。

そのような観点から思いを巡らせますと、経済大国に再びなることが幸せとは限りません。皆さんは皆さんなりの価値観で世界の中でのこの国の在り方、留学生の皆さんは母国の在り方を考え、新しい山頂に向かってスタートを切ってもらいたいと思いま

す。

現在のように様々な課題や問題を抱えている時代だからこそ、若い発想で皆さんが力を発揮できる未来への道を拓いてください。そのためのいくつもの未知のドアが皆さんからノックされるのを待っています。

人は皆支え合って生きています。その基盤である人を思いやる心を大切に、学んだ知識を遺憾なく発揮し、様々な困難な課題を克服し、現在の閉塞感を切り拓いて活躍されることを心から願って学位記授与式

平成 24 年 3 月 21 日

にあたっての告辞と致します。

改めまして学部卒業、大学院修了おめでとうございます。



北見工業大学長 鮎 田 耕 一

= 入試 =

大学院工学研究科（第2次）入学試験を実施

（入 試 課）

平成 24 年度大学院工学研究科博士前期課程（第 2 次）入学試験を 2 月 6 日（月）（学力検査）と 7 日（火）（面接試験）に実施しました。各専攻別の合格者数等は下表のとおりです。

また、平成 24 年度大学院工学研究科博士後期課程（第 2 次）入学試験を 2 月 6 日（面接試験）に実施しました。各専攻別の合格者数等は下表のとおりです。

博士前期課程

専攻名	募集区分		一般選抜		学部3年次学生 対象選抜		外国人留学生 特別選抜	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
機械システム工学専攻	2	0	0	0	2	2		
電気電子工学専攻	1	0	0	0	0	0		
情報システム工学専攻	3	3	0	0	0	0		
化学システム工学専攻	3	3	0	0	0	0		
機能材料工学専攻	1	1	0	0	0	0		
土木開発工学専攻	2	2	0	0	0	0		
合 計	12	9	0	0	2	2		

博士後期課程

専攻名	募集区分		一般選抜		社会人選抜		外国人留学生 選 抜	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
生産基盤工学専攻	1	1	0	0	0	0	0	0
寒冷地・環境・エネルギー 工学専攻	0	0	1	1	0	0	0	0
医療工学専攻	0	0	0	0	1	1	0	0
合 計	1	1	1	1	1	1	1	1

工学部入学試験を実施

(入 試 課)

平成 24 年度工学部一般入試について、1 月 23 日 (月) から 2 月 1 日 (水) までの願書受付期間内に前期日程 559 人、後期日程 1,627 人の出願がありました。

前期日程は 3 月 6 日 (火) に合格者を発

表し、後期日程は 3 月 12 日 (月) に個別学力検査を行い、20 日 (火) に合格者を発表しました。各系の合格者数は下表のとおりです。

前期日程

系 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	70	242	169
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 系	63	127	92
ハ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	46	190	98
合 計	179	559	359

後期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
機 械 ・ 社 会 環 境 系	50	666	73
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 系	42	562	50
ハ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	36	399	44
合 計	128	1,627	167

= 研究助成 =

平成23年度共同研究の受入状況

平成24年3月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
社会環境工学科	教授	川村 彰	STAMPER II を活用した簡易IRI測定技術とFWDを組み合わせた舗装の評価システムの開発	大成ロテック株式会社
社会環境工学科	教授	大島 俊之	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度構築に関する共同研究	網走測量設計協会
機械工学科	教授	柴野 純一	材料延性損傷進展に関する X 線検討	社団法人北見工業技術センター運営協会
社会環境工学科	教授	川村 彰	改良型STAMPER II と FWD を組み合わせた” 舗装の評価システム” の実用化に関する研究	ティーアール・コンサルタント株式会社
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	裏面排水材の透水性能に与える鉄バクテリアの影響	日特建設株式会社
社会環境工学科	教授	高橋 清	住民・企業・行政の協働を前提とした災害支援に関する研究	北見土木技術協会

平成23年度累計77件

平成23年度受託研究の受入状況

平成24年3月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
					円
社会環境工学科	助教	白川 龍生	レール締結装置の腐食状況調査分析	北海道旅客鉄道株式会社 北見工務所	250,000
社会環境工学科	准教授	館山 一孝	「平成23年度 IARC-JAXA情報システム (IJIS) 及び衛星データ等を利用した北極圏第4期研究海氷分野」のうち海氷厚 (厚氷域) アルゴリズムの開発・改良と現場海氷厚観測	国立大学法人東京海洋大学	650,000
社会環境工学科	准教授	館山 一孝	氷況観測・予測、及び油拡散予測技術の研究	国立大学法人東京大学	60,979,380

平成23年度累計14件

平成23年度奨学寄附金受入状況

平成24年3月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
					円
技術部	室長	岡田 包儀	コンクリートテスターの適用性判別実験解析	日東建設株式会社	300,000
バイオ環境化学科	教授	中谷 久之	バイオ環境化学に対する寄付	出光ライオンコンポジット株式会社 複合材料研究所	500,000
社会環境工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	株式会社ドーコン	300,000
社会環境工学科	教授	前田 寛之	工学研究助成	東亜グラウト工業株式会社	300,000
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	工学研究のため	株式会社ドーコン	500,000
自然エネルギー 実験室	准教授	三木 康臣	助成金支給のため (公益信託北海道開発国際交流基金平成23年度助成金) <事業内容> 太陽熱集熱器の認証機関登録を目的とした環境共生都市フライブルグの太陽熱利用施設の視察	中央三井信託銀行株式会社	142,000
	学長	鮎田 耕一	学生に対する支援 (大学院学生奨学金支給)	北見工業大学後援会	180,000
バイオ環境化学科	プロジェクト 研究員	住佐 太	自然界から単離した菌株の同定・保存に関する研究のため	エバラ食品工業株式会社 中央研究所	700,000
社会環境工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	日本工営株式会社 コンサルタント国内事業本部	105,000
機械工学科	助教	高井 和紀	住宅の室内空気調和に関する解析	ジェイバック株式会社	250,000
自然エネルギー 実験室	准教授	三木 康臣	工学研究の奨励のため	三木 康臣	12,694
電気電子工学科	准教授	橋本 泰成	医用工学研究のため	北見医工連携研究会	200,000

平成23年度累計49件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	異動内容
24.3.1	(新規採用)	平賀 啓二郎	工学部教授

= 国際交流 =

2012 年留学生交流の夕べ

(研究協力課)

去る、3月5日(月)本学コミュニケーションアトリウムにおいて、外国人留学生と北見市及び近郊の国際交流関係団体、ホストファミリー及び本学教職員など約100人が参加して「2012年留学生交流の夕べ」を開催しました。

鮎田耕一学長の挨拶に続いて、今春卒業・修了する11人の留学生を代表してマレーシアからの留学生 モハマト フィルダウス ビン バスライさんから、日本での留学生生活の思い出やお世話になった方々への感謝及び将来の抱負などのスピーチが行われ

た後、卒業生・修了生一人一人に学長から記念品が贈呈されました。

交流会には、留学生が日頃から大変お世話になっている支援団体やホストファミリーの方々が多数参加されており、様々な活動や思い出話に花が咲いていました。

また、アトラクションとして卒業・修了する留学生のスライドによる自己紹介、在学留学生による歌や日本人学生の楽器演奏などが披露され、盛況の中にも和やかな雰囲気うちに閉会しました。



記念撮影



パーティの様子

= 諸報 =

図書館長と学生利用者との懇談会を開催

(情報図書課)

図書館長と学生利用者との懇談会を2月1日(水)に開催しました。この懇談会は、国立大学図書館協会地区協会助成事業の一環として実施したものです。

参加した学生は、各系列より推薦された学部1年次の5名、修士1年次の大学院生と博士1年次の大学院生各1名の合わせて7名でした。

懇談会では以下の5つのテーマ毎に意見交換を行いました。

- テーマ1 図書館を利用して感じること・改善してほしいこと
- テーマ2 図書館各種サービスについて
- テーマ3 図書館職員の対応について
- テーマ4 今後の協力
- テーマ5 図書館でできる斬新なアイデア

特に、テーマ1については活発な意見交換が行われ、「勉強の合間のリフレッシュとしてDVDを利用しているので、内容を充実させて欲しい」「コミュニケーションホールを24時間開けてほしい」「趣味関係の雑誌を置いて欲しい」などの意見がありました。

テーマ4については、国立大学図書館協会地区協会助成事業の企画として今後予定しているブックハンティング(選書ツアー)への協力もお願いしました。

図書館職員では気づかないような意見が多数あり、非常に有意義な懇談会となりました。



図書館長より挨拶



懇談会の様子

日本政策金融公庫マーケティングセミナー&ビジネス商談会に参加

(地域共同研究センター)

北見工業大学は、昨年10月に日本政策金融公庫旭川支店と相互の発展と地域への貢献を目的とし、産学連携の協力推進に関する覚書を締結しました。地域企業の技術ニーズ情報と本学の研究シーズ情報を交換するなど、様々な活動を具体化し始めています。その一環として2月2日（木）に日本政策金融公庫旭川支店にて日本政策金融公庫旭川支店・北見支店主催の「道北地区マーケティングセミナー&ビジネス商談会」が開催され、本学からは地域共同研究センターの内島典子産学官連携コーディネーターが参加しました。

今回は、上川管内、オホーツク管内の「食」に関わる産業界を中心とした計14社が参加しました。ビジネス商談会の前に、参加者の皆様に、本学の歴史、旬な研究情報などを紹介する時間をいただき、研究を推し進めるだけでなく、様々な形での連携ができるという大学の活用についてお話ししました。

ビジネス商談会では、本学も含め参加者全員がお互いに15分から30分の情報交換を行うなど、参加者同士のネットワーク構築も行われました。

今後、この新たなチャンネルを通し、本学の社会貢献水準が更に高まることを期待しています。

北海道新工法・新技術商談会および札幌モーターショーで技術展示

(地域共同研究センター)

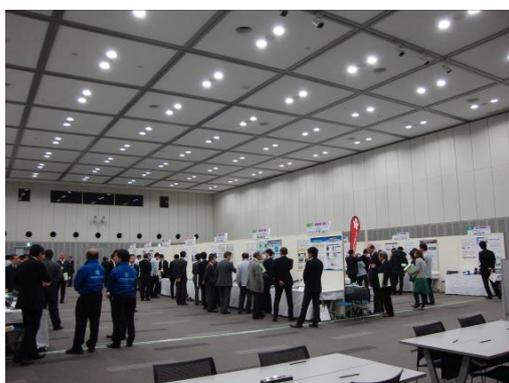
地域共同研究センターでは、北見工業大学で進められている様々な研究の成果を広く社会に伝えるための広報活動に取り組んでいます。このたび、社会環境工学科の川村彰教授とサテライト・ベンチャービジネス・ラボラトリーの富山和也研究員が進めている車体挙動解析技術を活用した路面平坦性評価に関する研究について取りあげ、「北海道新工法・新技術商談会」と「札幌モーターショー2012」でその成果を展示しました。

北海道新工法・新技術商談会は北海道が毎年自動車会社を会場に開かれている北海道の技術PRイベントで、今年度は2月9日に愛知県刈谷市の(株)デンソー本社を会場として開催されました。(株)デンソーをはじめ関連の企業から、展示技

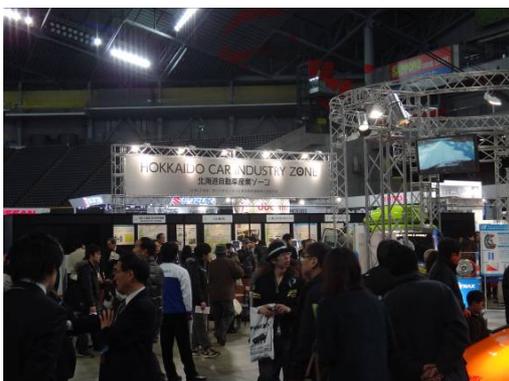
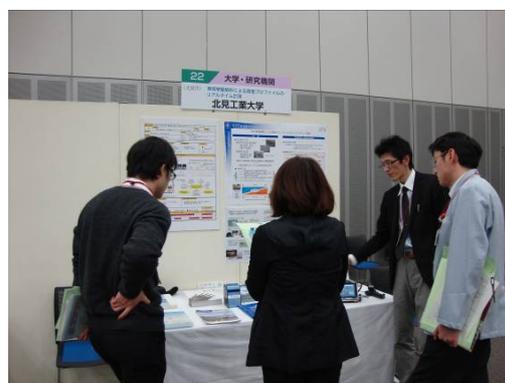
術に興味を持つ数百名の技術者や経営者が来場しました。2月17日から19日に行われた札幌モーターショーは北海道初のモーターショーで、3日間で12万5千人を超える来場者を集める熱気に溢れたイベントとなりました。

展示した路面評価技術・装置は、路面評価のみに留まらず、車の設計や荷物の輸送に関する技術開発などに活かすことのできる知見をもたらすものです。来場者から強い関心を集め、川村教授との共同研究を検討したいとの意向も寄せられました。

研究の広報のみならず、大学の広報としても大きな成果を挙げる機会となりました。



北海道新工法・新技術商談会での技術展示（愛知県刈谷市）



札幌モーターショーでの技術展示（北海道札幌市）



北見市立東小学校の理科実験研修を実施

(技術部)

昨年8月19日に調印された北見市教育委員会との連携協力に関する協定に基づき、2月10日(金)に北見市立東小学校において先生を対象とした理科実験研修を初めて実施しました。

これは、理科教育の充実を目的として東小学校から依頼されたもので、技術部で検討した結果、講師として須澤啓一係長を派遣しました。

当日は、東小学校の先生15人が参加し、実験を含む講義を行いました。講師の説明に従って、小学校教科書の新しい単元内容

に基づいた手回し発電機、コンデンサーやLEDライトを使用した電気実験や、教科書の内容を少し発展させた電気実験等も行いました。

渡邊英樹校長先生からは研修の修了時に、「教材からは気づかないものに気づかせてくれました」との言葉をいただき有意義な研修を行うことができました。

今後とも本学の地域連携事業を通じ技術部も主要な役割を担い、子どもたちの基礎学力向上及び理工系人材確保の一助となるよう取り組んでいきたいと考えています。



理論及び実験の概要説明



発光ダイオードを使用した実験



コンデンサーを使用した実験



手回し発電機で100Wの電球を点灯

マネジメント工学コース第一期生の卒業論文発表会

(マネジメント工学コース)

平成 20 年度の学部改組により設けられた、マネジメント工学コースの第一期生が取り組んだ「マネジメント工学プロジェクト」の卒業論文発表会が、平成 24 年 2 月 27 日(月)、総合研究棟 2 階の多目的講義室で開かれました。

本コース学生が取り組んできた研究テーマは、マネジメント・ツールを使った工学から、マネジメントのための技術、研究開発のマネジメント、そして典型的なマネジメントまで、広範な領域に及びます。発表者の中には、工学系やマネジメント系それぞれの専門分野の学会で既に発表を経験し

た学生も数名おり、発表・質疑応答を通じ、緊張の中にも頼もしさを感じさせるプレゼンテーションが相次ぎました。

また、各学科等の教員だけでなく他コースや 3 年次の学生も参画し、参加者述べ 70 人を越える盛大な発表会となり、テーマ、発表、参加者などいずれをとってもマネジメント工学コースらしい、多彩で活発な発表の場となりました。

その学生も 3 月 21 日をもって卒業し、「将来の社会を担う幅広い能力を備えた人材」として、大いに活躍し社会に貢献してくれることを期待しています。



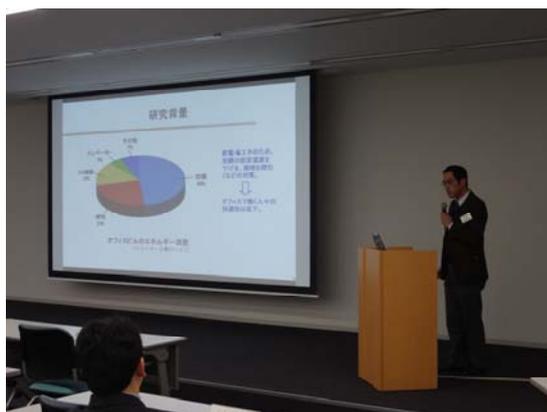
2 月 27 日に開かれた平成 23 年度のマネジメント工学コース卒業論文発表会

北海道地域 3 大学新技術説明会参加

(地域共同研究センター)

(独)科学技術振興機構(以下、JST)と北海道大学産学連携本部が主催の「北海道地域 3 大学新技術説明会」が、2月28日、東京市ヶ谷のJST東京別館ホールで開催されました。新技術説明会は、大学、公的研究機関およびJSTの各種事業により生まれた研究成果の実用化促進を目的に、大学研究者が技術説明を行い、広く実施企業・共同研究パートナーを募る場としてJSTが定期的に行っています。

今回、北海道大学、はこだて未来大学、北見工業大学が参加し、本学からは、マテリアル工学科の阿部良夫教授、機器分析センターの大津直史講師がそれぞれ進めている研究について紹介しました。会場には97人の来場者があり、両研究者のプレゼンテーション後には、企業の方からの個別相談も行われ、研究の今後の取り組みに関する有意義な情報交換が行われました。



JST 東京別館ホール 左) 大津講師の発表、 右) 阿部教授の発表

安全衛生講習会を開催

(施設課)

2月29日(水)、平成23年度第2回安全衛生講習会を開催しました。講習会は労働安全衛生法に基づき、教職員の健康増進を目的として例年実施されています。

今回は学生相談室カウンセラー白川純子氏を講師に「職場のストレスのコミュニケーション～「アサーション」と「アンガーマネジメント」を学ぶ～」と題し職場におけるストレスマネジメントについてご講演いただき、約30名の教職員が参加しました。

講習会はストレスマネジメントに関する学術的沿革の説明の後、代表的なストレスマネジメント方法のひとつである「コミュニケーションの技術」について、日常業務で発生しうる会話を例に挙げて「適切な自己表現・伝え方(アサーション)」を考え、何らかのストレスによって起きた「怒り(アンガー)」をどのように受け止め、表現するかなどを資料の図等を使って説明いただきました。



講習会の様子

図書館情報システムを更新

(情報図書課)

3月1日に図書館情報システムが更新されました。図書館情報システムとは、図書館の職員が使用する業務端末だけでなく、利用者が本を探すときに使用する蔵書検索システム(OPAC)も含まれます。今回のシステム更新で新たに利用できるようになった機能をご紹介します。

(1)電子ジャーナルが、OPAC から直接検索できるようになりました。これまで OPAC とは別ページから検索していた電子ジャーナルが、蔵書検索から直接検索できるようになりました。また、契約タイトルについては、学内の端末からであれば(蔵書検索専用端末を除く)1クリックで該当のページへ遷移します。

(2)横断検索機能が追加されました。これにより、北見工業大学図書館の蔵書だけでなく、全国の大学図書館の蔵書や国立国会図書館の蔵書、更に雑誌記事も同時に検索できます。

(3)図書館 WEB サービス「My Library」が統合ユーザアカウントから利用できるようになりました。これまでは図書館発行の ID とパスワードを使用していましたが、今後は統合ユーザアカウントでご利用ください。シングルサインオンシステムからもログインできます。

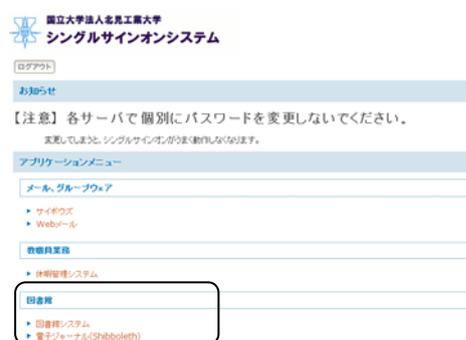
(4)セルフ貸出機が新しくなりました。一時的に使用中止にしていたセルフ貸出機も新しくなりました。ご自分で簡単に貸出ができます。

(5)電子ジャーナルが学外からも利用できるようになりました。学術認証フェデレーションという電子リソース運用のフェデレーションに参加することにより、ご自宅や出張先からも電子ジャーナルが利用できるようになりました。(利用できないタイトルもあります)

より便利になった図書館の各サービスを是非ご利用ください。お気付きの点やご要望等あれば、図書館までお知らせください。



OPACの電子ジャーナル画面。
画面中央のリンクから各誌のページへ。



シングルサインオンシステムから図書館
の各サービスがご利用できます。

FD 講演会を開催

(学生支援課)

3月5日(月)沼津工業高等専門学校の大石加奈子准教授と北海道工業大学の塚越久美子准教授をお迎えし、多目的講義室においてFD講演会を開催しました。

この講演会は、「学生に対する「書くこと」「話すこと」の早期のトレーニングが重要であり、このことを先進的に実践されている先生方の事例を本学教員の方々にも知っていただきたい」旨の要望が学内からあり、教育改善推進センター兼任会議で、この内容でのFDが必要であると判断し開催したものです。

大石准教授からは、「エンジニア育成のためのコミュニケーション教育の方法と実践」と題して、コミュニケーション能力を構成

する要素と事例紹介をいただいた後、参加者が二人一組となって問題解決力を引き出すためのトレーニングを実施しました。

塚越准教授からは、「理工系学生のための日本語表現法 ～リメディアル教育の意義と実践～」と題して御講演をいただき、客観的事実のみを記載する報告書の作成から開始し、自己アピール文などの感情表現を含む文書作成に移行していく教育手法と実践例が紹介されました。

今回のFD講演会には52名の教職員から参加があり、講演時間が2時間と短かったため質問時間を十分に確保できませんでした。参加者と講師が一体感を持った有意義な講演会となりました。



講演中の大石准教授(左)と塚越准教授(右)



←二人一組のトレーニングの様子

個人情報保護研修を開催

(企画広報課)

3月9日(金)、総合研究棟多目的講義室において平成23年度国立大学法人北見工業大学個人情報保護研修を実施しました。この研修は保有個人情報の取扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の醸成を図るため毎年開催しているものです。

今回は、本学情報処理センターの升井洋志准教授により、「北見工大における個人情報保護」と題し、『被害者』とならないためには、『加害者』とならないためには」と

いう2つの観点から、個人情報保護に対する心構えと注意点、本学の規程等について、いくつか事例を交えながらの講演を実施しました。

講演には44名の教職員が参加し、「めんどくさいと思うようなことの積み重ねが重要」との説明に、各受講者も熱心に聞き入っており、本学における個人情報保護に対する意識も高まり、有意義な研修となりました。



講師の升井准教授



研修の様子

北見医工連賞授賞式・オホーツク医学大会を開催

(地域共同研究センター)

3月10日(土)、本学 A101 講義室において、北見医師会、北見医工連携研究会主催による第5回オホーツク医学大会が開催されました。

大会の初めに、主に若手研究者の医療工学研究のために設けられた北見医工連賞の贈呈式を行い、本年は本学電気電子工学科の橋本泰成准教授が授賞いたしました。まさに若手の先生ですので今後の医療工学研究等への活躍に期待がよせられています。

また、北見医師会、北見歯科医師会、オ

ホーツク獣医師会、本学、日本赤十字北海道看護大学等から一般講演が8件あり、その中では癌等の手術事例の報告もあるなど、地域の医療事情がよくわかり、こういった機会をもっと市民の皆さんも活用して欲しいものだと感じました。さらに、特別講演では産業技術総合研究所の伊藤亮氏からインターフェロン作用を持つ植物の開発などが紹介され、医療工学にもつながるおもしろい報告でした。



北見医工連賞授賞式



橋本准教授の講演

新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン成果報告会を開催

(地域共同研究センター)

平成 18 年～22 年度で終了した JST((独)科学技術振興機構)の事業「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」を、平成 23 年度においては北見市のご協力により「産学官連携第 6 次産業人材育成事業」として継続することが出来ました。第一次産業製品の工業化を地域戦略の柱とし、健康と安心・安全をキーワードに新規作物の作付けから商品作りまでの知識を有した「工学的農業クリエイター」の創出を目指し取り組んだものです。

3 月 15 日(木)に本事業の成果報告会があり、その中には、受講生(10 名)による幾多の製品、商品が開発されたものの中から、特に商品化に結びつきそうなものとして、摘果リンゴを使用した「フルーツ羊羹」、ニンジンから化粧品、大豆から作ったマヨネーズ、植物工場によるサラダ用ほうれん草、薔薇の栽培技術と香料化、木イチゴソース等々の発表がありました。



新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン成果報告会の様子

地震を想定した防災訓練の実施

(施設課)

3月16日(金)、地域共同研究センターで地震発生時の安全確保及び地震によって発生した火災に対する初期消火・避難誘導等の防災訓練を実施しました。震度5強の地震が発生したという想定のもと、ドアのゆがみによる閉じ込めや、棚などの転倒によるけが人が発生していないかを、声を掛け合って安否の確認を行いました。

けが人が発生しなかったことが自衛消防隊地区隊本部に報告された後、地震によってセンター1階104実験室から出火したという想定で、火災訓練が行われました。第一発見者は初期消火及び119番通報と本部キャンパスへの連絡を行い、ほどなく到着した自衛消防隊地区隊は隊長(川村彰センター長)からの指示のもと、各自任務にあ

たりました。

訓練終了後、北見地区消防組合消防署松村様から「地震発生時には避難経路の確保や火の元を確認することも大事だが、まず自分の身の安全を確保してほしい」、「地震発生後に119番通報したとしても現場に向かう事ができないケースが考えられるため、いざという時には自衛消防隊など自分たちの力で対処するという心構えが大切です」との講評をいただきました。

また、訓練には教職員だけでなく地域共同研究センターに常駐しているオホーツク融合センター・中小企業基盤整備機構・北見産学医協働センターの方々も参加し、万が一に備えて安全確保や避難経路の確認を行いました。



火元発見者による119番通報



自衛消防隊に指示を出す川村センター長

北見工業大学ロゴマーク決定！

(企画広報課)

北見工業大学の特徴やイメージを象徴するロゴマークとキャラクターを昨年10月から12月中旬まで一般公募したところ、全国からロゴマーク539点、キャラクター274点、総数813点の応募がありました。

その後、応募作品の第1次選考を行い、学生・学内教職員の意向調査を経て、広報委員会で下記の作品を最終選考し、3月19日(月)に受賞者列席のもと、表彰式を挙行し、同時に一般公開しました。

ロゴマーク部門最優秀賞の若松雄一氏は、奥様の兄が本学の元教員であったこと等、本学に縁のある方であることが分かりました。

残念ながら、キャラクターの最優秀賞には該当作品がありませんでしたが、決定したロゴマークは今後の広報活動に積極的に展開するとともに、皆さまから末永く愛されることを期待してやみません。



左から高橋氏、鮎田耕一学長、若松氏、芦田氏

ロゴマーク部門 最優秀賞作品



コンセプト

地域や地球環境とのつながりをイメージした輪(Ring)は、Kitamiの頭文字Kを図案化したものです。また、小さな円で瞳を表し組み合わせることで、地域をはじめ日本や世界に向けて情報発信する大学であるようにとの願いが込められており、星マークは北天に輝く星を、カラーは日照率の高い北見の空とオホーツクの青い海を表現しています。

受賞者

	ロゴマーク部門	キャラクター部門
最優秀賞	若松雄一氏	該当なし
優秀賞	芦田為美氏	高橋政幸氏

寒地土木研究所と連携・協力に関する協定を締結

(研究協力課)

3月22日(木)、本学において「国立大学法人北見工業大学と独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所との連携・協力に関する協定調印式」を実施し、関係者が見守る中、鮎田耕一学長と川村和幸所長が協定書を取り交わしました。

本学と寒地土木研究所との交流は、本学が4年制の大学として設置されたときから現在に至るまで続いており、これまで土木や寒冷地工学といった分野での共同研究や講師の派遣などのつながりがありました。この協定締結は、組織と組織との連携とい

う大きな枠組みの中で協力関係をより強力なものとし、相互の発展に寄与するとともに、北海道の振興に資することを目的としたものです。

今後は、土木系、特に寒冷地工学系の共同研究や人材交流をより一層推進するとともに、幅広い分野での共同研究や公募型競争的資金の共同参画、研究設備・施設の相互利用など連携を強化していき、本学と寒地土木研究所との関係がさらに緊密なものとなり、研究開発・人材交流が推進されることを期待しています。



協定書を取り交わす川村所長（左）と鮎田学長（右）

平成 23 年度国立大学法人北見工業大学 永年勤務者表彰式（退職時表彰）を挙行

（総務課）

平成 23 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式（退職時表彰）が 3 月 30 日（金）午前 9 時 40 分から第 2 会議室において行われました。

本学永年勤務者表彰（退職時表彰）の被表彰者に対し、学長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

被表彰者は下表のとおりです。（50 音順）

氏名	所属学科等
大島 俊之	社会環境工学科
前田 寛之	社会環境工学科
柴田 孝次	情報システム工学科
鰐目 淑範	社会環境工学科
村井 伸夫	研究協力課



= 日誌 =

2 月

- 1 日 図書館長と学生利用者との懇談会
- 2 日 中小企業基盤整備機構個別相談会
- 6 日 就職支援室会議、大学院博士前期課程(第2次)入学試験(学力考査)、大学院博士後期課程(第2次)入学試験(面接)、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 7 日 大学院博士前期課程(第2次)入学試験(面接)
- 10 日 入学者選抜委員会
- 13 日 図書館委員会
- 14 日 入学試験実施委員会、入学者選抜委員会
- 15 日 教授会、研究科委員会、大学院博士課程合格発表、私費外国人留学生合格発表
- 16 日 中小企業基盤整備機構個別相談会
- 21 日 地域共同研究センター運営委員会・兼任教員会議
- 22 日 教育研究評議会、発明審査委員会、入学者選抜委員会
- 23 日 広報委員会
- 24 日 教務委員会
- 27 日 役員会、入学者選抜委員会
- 29 日 地域連携推進委員会、国際交流委員会

3 月

- 1 日 学生委員会、入学者選抜委員会、中小企業基盤整備機構個別相談会
- 5 日 教授会、研究科委員会、留学生交流の夕べ、FD講演会、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 6 日 工学部前期日程合格発表
- 7 日 A-STEP申請書作成のポイントセミナー
- 8 日 教務委員会
- 9 日 教授会、個人情報保護研修
- 10 日 北見医工連携大賞授賞式・オホーツク医学大会
- 12 日 工学部後期日程学力検査
- 13 日 役員会
- 14 日 教育研究評議会
- 15 日 新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン成果報告会、学生表彰式、中小企業基盤整備機構個別相談会
- 16 日 地震を想定した防災訓練、救急救命講習会、教務委員会、入学者選抜委員会、地域共同研究センター運営委員会・兼任教員会議
- 19 日 教授会、ロゴマーク・キャラクター表彰式、入学者選抜委員会
- 20 日 工学部後期日程合格発表
- 21 日 学位記授与式
- 22 日 独立行政法人土木研究所寒地土木研究所との連携・協力に関する協定書調印式、就職支援室会議、北見地区GIS・GPS研究会役員会
- 23 日 経営協議会、役員会、学生よろず相談室会議、奨学金返還免除候補者選考委員会
- 29 日 新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン修了式
- 30 日 永年勤務者表彰式